

令和五年元旦

# 新年おめでたうございます

伊原 吉之助

世は明かに末世です。眞に“人類の末世”です。  
願はくば、今年が人類にとって最悪の年ではありませぬやうに！

今の世の人類の最大の問題は、共同體の崩壊ですねえ……。  
家族、近隣社會に始り、國家（國民）に到る和と協力の集團が、個人主義や合理主義に破壊されて人々は、  
ばらばらで助け合はぬ存在になつて來ました。  
人の集團生活を支へるのは和の精神です。鬭争心ではありませぬ。  
我々大和民族は、十七條の憲法を持出すまでもなく、「和を貴し」としてきました。  
その「和」が消し飛ぶくらゐ、世の中が騒然且つ雜然として來ました。

私の疑問第一：自分のお腹の中でとつきどうか育てた我が子を、夜中に泣いてうるさいとか、遊ぶ邪魔になるとか、育てるのが邪魔臭いとかの小さな理由で實の母親がいびり殺す世の中つて、一體どうなつてゐるのでせうか……？

私の疑問第二：生めよ増えよ地に滿てよと願つてきた人類が、食糧や水の不足を前に人口削減を望み、労働する人間よりロボットを重んずるやうになつたとは……？ 絶句するほかありませぬ

昨年二月二十四日に始つたロシア・ウクライナ戦争はその後泥沼状態に。延々と續いていつ決着が附くことやら皆目検討がつかぬ有様……？

昨年十一月の米國中間選挙では、主導權を握る民主黨が二年前の大統領選挙時より「巧妙且つ大規模に」投票の大量誤魔化しをやつたのに、世間ではこれを問題視せず、専らトランプに責任を押し付けて居ます。  
世の中、どうしてこんなに目の見えぬ人が多いのでせう……??? 不思議でなりませぬ。

〈口頭発表〉

令和4年／2022年：

- 1) 1月20日 21世紀日亞協會 (大阪)：危機迫る習近平政權：創立百年で直面する中共の危機
- 2) 1月22日 神戸社会人大学 (神戸)：新年會 新春講話『世の行く末』 → 纏りかたで流會
- 3) 1月27日 新伊原塾 35 (大阪)：書評：新年會 (大東洋) 新春講話「人類の来し方・行く末」と宴會  
→ 纏りかたで流會
- 4) 3月10日 新伊原塾 36 (大阪)：書評：宮崎正弘『日本の保守：やまと魂をつくった思想の系譜』
- 5) 3月24日 新伊原塾 37 (大阪)：書評：古谷經衡『敗軍の名將：インパル・沖繩・特攻』
- 6) 4月21日 新伊原塾 38 (大阪)：書評：ロジャー・バルバース『おどろくべき日本語』
- 7) 5月19日 新伊原塾 39 (大阪)：書評：平川祐弘『昭和の大戦とあの東京裁判』
- 8) 5月27日 21世紀日亞協會 (大阪)：二つの“天下大亂”の行方
- 9) 6月23日 新伊原塾 40 (大阪)：書評：東京裁判關係書若干
- 10) 7月21日 新伊原塾 41 (大阪)：書評：草間洋一『近世日本は超大国だった』
- 11) 8月25日 新伊原塾 42 (大阪)：書評：福山 隆『「陸軍中野學校」の教へ』
- 12) 9月4日 神戸社会人大学 43 (神戸)：世の行く末：世界と日本の行く末を考へる
- 13) 9月10日 新伊原塾 44 (大阪)：書評：昭和史Ⅰ・岡田益吉『昭和の間違ひ』
- 14) 10月8日 新伊原塾 45 (大阪)：書評：福島香織『習近平：最後の戦ひ』
- 15) 11月3日 三 確 會：「世の行く末」
- 16) 11月17日 新伊原塾 46 (大阪)：書評：石平『そして中國は戦争と動亂の時代に突入する』
- 17) 12月15日 新伊原塾 47 (大阪)：書評：昭和史Ⅲ・山岡貞次郎『支那事變：その秘められた史實』

令和5年／2023年の豫定：

- 1) 1月14日 新伊原塾 48 (大阪)：昭和史Ⅳ：海軍軍縮と五一五事件：英米との協調と對立……  
林 新・堀川恵子『狼の義：新犬養木堂傳』 (KADOKAWA, 2019. 3. 23)  
古島一雄『一老政治家の回想』 (中央公論社、昭和26. 5. 5/44. 6. 25再版)  
田中健之『昭和維新』 (學研プラス、2016. 3. 8)
- 2) 2月18日 新伊原塾 49 (大阪)：昭和史Ⅴ：世界大不況からの脱出競争とブロック經濟の試練  
池田美智子『對日經濟封鎖：日本を追ひ詰めた12年間』 (日経新聞社、1992. 3. 25)
- 3) 3月18日 新伊原塾 50 (大阪)：昭和史Ⅵ：大量生産への道：我國の總力戰對應努力 (一)  
竹村民郎『戦争とフォーティズム：戦間期日本の政治・經濟・社會・文化』 (藤原書店、2022. 6. 10)
- 4) 4月18日 新伊原塾 51 (大阪)：昭和史Ⅶ：二二六事件：昭和維新成らず  
明治維新 → 第二維新 → 大正維新 → 昭和維新 (二・二六事件で維新運動消滅)
- 5) 5月 日 新伊原塾 52 (大阪)：昭和史Ⅷ：我國の總力戰對應努力 (二)  
片山杜英『未完のファシズム：「持たざる國」日本の運命』 (新潮選書、2012. 5. 25/2013. 1. 15 8刷)
- 6) 6月 日 新伊原塾 53 (大阪)：書評：兵頭二十八『地政學は殺傷力のある武器である』 (徳間書店、2016. 2. 29)

【三確會】コロナ禍が落ち着き、卒壽の會から三年ぶりで開けました。日取りが、四月の櫻の時期から十一月三日の明治節の秋晴れの日に變りました。場所はいつもの奈良 ロイヤル ホテル  
晝食・参加者の自己紹介／夕食と入浴／二日目は朝食後に飛び火野の鹿寄せ。壓巻でした  
世話役が一番若い天辻さん、石津君から、來年は一期生に變ります